

## はじめに

この「CICE 叢書 3」は広島大学教育開発国際協力研究センターが国際協力銀行からの委託により「教育ネットワーク研究会」として実施した国際教育開発に関する連続講座の内容を、国際協力銀行の了解を得てまとめたものである。

本研究会は、教育分野に関する国際協力銀行の知見を深め、また専門家・研究者等に発表の場を提供することによって、国際協力銀行と専門家・研究者の間のネットワークを形成・強化し、今後機動的に活用できる協力関係を構築することを目指して行われた。

発展途上国における教育開発は、初等教育に限ってみてもミレニアム開発目標や「万人のための教育」など国際的な取り組みが活発である。さらに経済のグローバル化に伴って知識や技術の重要性に対する認識が高まり、ポスト・ベーシック(基礎教育後の)教育の役割も再評価されているところである。

また平成 20 年度には国際協力銀行と国際協力機構とが統合されることがすでに決定しており、日本の国際教育協力が一段と強化され、また効果的なものとなることに内外からの期待が寄せられている。

こうした背景のもとで本研究会を立ち上げたことは極めて意義深いと言える。

連続講座は平成 18 年 10 月から平成 19 年 2 月までの間に計 5 回開催された。各回の講座は 2 時間半にわたって行われ、講義のあと質疑応答の時間が持たれた。

参加者は国際協力銀行職員(24 名)、国際協力機構職員(4 名)、その他大学等研究者・専門家、大学院生など、のべ 50 人余りが参加した。既定の回数以上の参加者に対しては広島大学教育開発国際協力研究センターから修了証書が発行されたが、その数は予想を大幅に上回り 30 名を超えた。参加されたみなさまの熱意に敬意を表する。

この報告書にはその際の講義内容をもとに書き下ろした原稿を収めるとともに、講義資料を巻末に載せている。これらは国際協力実務者向けに有用であるばかりでなく、広く共有されてよい内容であることから、CICE 叢書として改めて整理したものである。関係者、研究者、学生諸氏にとって多少ともご参考になれば幸いである。

なお、本報告書に収められた内容は執筆者の個人的見解であり、国際協力銀行あるいは広島大学教育開発国際協力研究センターを代表するものではないことをおことわりしておく。

最後に、日程を調整して質の高い講義をしていただいた講師の先生方と、本研究会を構想の段階からご参画いただき、研究会にも全会回ご出席いただいた国際協力銀行開発金融研究所総務課の長瀬利雄課長様、同課太田美穂様のご尽力に心から感謝申し上げます。

平成 19 年 5 月  
広島大学  
教育開発国際協力研究センター  
吉田 和浩

\*\*\*\*\*

5回の研究会・連続講座の内容は以下の通りである。

第1回 平成18年10月27日

テーマ「教育セクターの国際的潮流と国際機関の取り組み」

講師 黒田 一雄(早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授)

吉田 和浩(広島大学教育開発国際協力研究センター助教授)

第2回 平成18年11月24日

テーマ「初中等教育の意義と課題」

講師 山田 肖子(政策研究大学院大学助教授)

北村 友人(名古屋大学大学院国際開発研究科助教授)

第3回 平成18年12月22日

テーマ「高等教育と社会活動」

講師 黒田 則博(広島大学教育開発国際協力研究センター教授)

米澤 彰純(大学評価学位授与機構助教授)

第4回 平成19年1月26日

テーマ「教育へのアクセス拡大と質の保証」

講師 澤村 信英(広島大学教育開発国際協力研究センター助教授)

小川 啓一(神戸大学大学院国際協力研究科助教授)

第5回 平成19年2月16日

テーマ「教育セクター支援の分析手法」

講師 吉田 和浩(広島大学教育開発国際協力研究センター助教授)

長尾 眞文(広島大学教育開発国際協力研究センター教授)

(所属、肩書きは平成19年3月末時点)

\*\*\*\*\*